第 11 回

～洋書絵本の専門店が贈る～

『のんびり洋書めぐり』

Ehon House

(株)岩崎書店 絵本の家事業部 仕入担当
望月真由

ナショナルジオグラフィックキッズのここがすごい！

黄色い枠が印象的な表紙に、息を呑むハイクオリティな写真の数々。ナショナルジオグラフィックと言えば、誰もが一度は目にしたことのある著名雑誌です。日本でも大変人気のある定期購読誌ですが、英語圏での人気はさらに高く、多くの図書館や書店で見かけます。時にはスーパーやコンビニのレジ脇にも陳列され、身近で手に取りやすい雑誌となっています。

今回は、ナショナルジオグラフィックの子ども版「ナショナルジオグラフィックキッズ」(以下、ナショジオキッズ)について掘り下げてみたいと思います。具体的にナショジオキッズのどこがすごいのか。筆者の英語圏での生活を振り返り、その人気の秘密を分析していきます。

南アフリカやイギリスでは、子どもたち、特に小学生にとってナショジオキッズと言えば、ずばり調べ学習の強い味方でした。インターネットであらゆることを調べられる時代ではありますが、時に、子どもたちは「インターネット使用禁止」という課題を与えられます。例えば、「宇宙のことを調べましょう。惑星の模型を作ったり、想像する宇宙人を工作したり、なんでも構いません。でも、インターネットは使わないでください。」といった具合です。パソコン世代、スマホ世代には致命的ともいえるこうしたお触書が出され、子どもだけでなく、助言をする立場である周囲の大人も含めて途方にくれます。先生の意図は、ずばり「本にあたりましょう」ということ。出典が明らかで正確な情報を提供してくれる書籍というツールは、わからないことを調べるという過程で、大変重要なツールとなります。特に子どもたちが調べ学習の基礎力をつけるには、まずは本を使いましょうという手法が頻繁にとられていました。

そんな時、多くの親や子どもたちが頼りにするのが、ナショナルジオグラフィック・キッズシリーズでした。前述の知名度に加え、どこの本屋にも必ずあるという安定の販売網、そしてナショジオキッズの十八番である、群を抜いてハイクオリティな写真の数々、正確な情報、子どもたちが調べ学習に活用しやすい語彙の数々等、「ありがとう！ナショジオキッズ！」と何度思ったかわかりません。子どもたちはページを何度もめくっては、情報を自分の言葉に変え、アイデアのヒントをもらい、知らないことを調べるという体験を楽しみます。そして本棚に並べておけば、またいつでも戻れる知識の泉がそこにあります。先生がなぜ、インターネット使用禁止としたのか、課題提出が終わり、本棚に並ぶナショジオキッズの背表紙を眺め、はっと気づかされるのでした。

ナショナルジオグラフィックの歴史

そもそも、ナショナルジオグラフィックとはどういった存在なのでしょうか？いつごろから始まり、どんな経緯を経て、現在のような、人々に身近な書籍を発売する出版社となったのでしょうか？

ナショナルジオグラフィック協会(National Geographic Society、NGS)は、アメリカ合衆国ワシ

ントンD.C.に本部を置く、世界最大級の非営利科学・教育団体です。１８８８年設立された直後から、「未知の地球をわかりやすく伝える」との編集理念のもとに、あらゆるテーマを包括する雑誌刊行をスタートします。当時の会長を務めたのが、電球を発明したことで有名なグラハム・ベルでした。１８９６年から現在のような月刊誌となり、黄色い枠組みで特徴的な今の表紙デザインの原型が採用されました。

また、現在では多くの言語に翻訳出版されているナショナルジオグラフィック誌ですが、世界で初めて翻訳出版に踏み切った国が、日本でした。１９９５年、日経BP社とナショナルジオグラフィック協会の折半出資会社である株式会社日経ナショナルジオグラフィック社が誕生し、ナショナルジオグラフィック日本版が刊行されました。その後広く認知され、現在の国内購読者は5万人を超えるとも言われています。

さらに、ナショナルジオグラフィック協会は数多くの探検や調査プロジェクトに資金提供を行っており、主なものにインカ帝国の空中都市マチュ・ピチュ発見や植村直己による北極犬ゾリ単独行、タイタニック号の発見調査などが挙げられます。１９６３年のナショナルジオグラフィックテレビジョン設立後、１９９７年にはドキュメンタリー専門チャンネル「ナショナルジオグラフィックチャンネル」を設立し、現在はフォックス社「ナショナルジオグラフィックTV」として、視聴者に豊富な映像資料を提供しています。

子ども向け月刊誌「ナショナルジオグラフィックワールド」が始まったのは、1975年でした。もともとナショナルジオグラフィック協会は、１９１９年から学校向け週刊誌を刊行しており、この週刊誌を母体に「ナショナルジオグラフィックワールド」が刊行されました。その後２００２年に「ナショナルジオグラフィックキッズ」と名称を変え、現在では年に10回刊行される定期購読誌となり、世界中の子どもたちに愛読されています。

マイ・ファースト・ビッグ・ブック・シリーズを読んでみた

ナショジオキッズはもともと毎月届く薄い定期購読誌ですが、その内容はジャンル別に再編集され、様々なムック本として、ハードカバーやペーパーバック書籍で出版されています。そんな数あるナショジオキッズ書籍シリーズの中でも、絶大な人気を誇っているのが「マイ・ファースト・ビッグ・ブック・シリーズ」です。４歳から８歳の子どもたちを対象にした、入門向けの図鑑シリーズで、自分で読んでも、読んでもらっても楽しめる内容になっているのが特長です。

このシリーズから２０２３年3月に発売された最新刊の「スポーツ」を読んでみました。ナショナルジオグラフィックとアメリカのスポーツ専門チャンネルESPN社がコラボした最強スポーツ図鑑で、あらゆるスポーツの映像プロフェッショナルが集結し、内容を練り上げています。対象年齢の子どもたちが一人でも読むことができるよう、英語表現やレイアウトに綿密な工夫が施されています。例えば、バスケットボールのページ。バスケットボールコート一面のイラストには、各ラインの名前、その意味、主なルールの説明、得点についてなど、基本的な情報が展開されています。情報を詰め込みすぎず、相互的な関係も意図しながら、全体的な連動を意識したレイアウトは、まさに情報提示の魔術師ナショジオキッズのなせる業。体育の授業でも、英語の授業でもすぐに使えそうなページです。

次に、サッカーのページを見てみます。サッカーとはどんなルールのスポーツなのか、世界でどのくらい親しまれているスポーツなのか、短い英文の簡潔な表現で説明されています。意外に思われるかもしれませんが、料理のレシピやスポーツのルール解説は、物事の手順を明確に表現しているので実は英語の学習にぴったり。英語に触れ始める初期の頃こそ、こういった読みやすい英文にたくさん出会いたいですね。

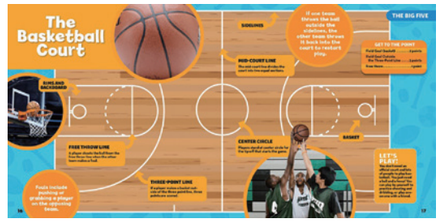
各スポーツのルールや使う道具だけでなく、そのスポーツの誕生の背景や歴史も学ぶことができ、同じ種目はひとつとして存在しないというスポーツの魅力を知ることができます。バスケットボールやサッカー、ラクロスにクリケット、アーチェリーやボウリングに飛び込み、スケートボードやスノーボード、更には校庭で遊ぶゲームまで、個人競技や団体競技問わず、あらゆるスポーツを掲載しています。世界のスポーツの祭典、オリンピックやパラリンピックの特別ページも載っています。スポーツ観戦が好きでも、スポーツをするのが好きでも、スポーツ好きは誰でも集まれ！と言わんばかりの充実したラインナップ。この本を使って、実際に体を動かしてみるといったインタラクティブな指南書としても活用できます。ページのいたるところには、楽しい「スポーツ豆知識」が散りばめられ、子どもたちの授業内クイズ制作やプレゼンテーションにも大活躍。世界のナショナルジオグラフィックが保有する最高峰の写真がこの1冊に２００以上掲載されています。

皆さんもぜひ、ナショナルジオグラフィックキッズを開き、長年蓄えられた科学情報誌の豊かな鉱脈に触れ、エキサイティングな調べ学習体験の場をつくりませんか？

『National Geographic Little Kids First Big Book of Space』(National Geographic Kids 2012)
娘がクラスで初めて調べ学習発表を行った際、お世話になった１冊。まだまだ英語がわからなかった時期でしたが、多彩な写真の数々が娘の興味を引き出してくれました。

定期購読できるナショナルジオグラフィックキッズは、薄い雑誌ながらも豊富な情報、写真、子どもたちが喜ぶクイズやアクティビティが満載！写真は、南アフリカの学校で、息子が読書賞を受けた際のご褒美として頂いたナショジオキッズ。

『National Geographic Little Kids First Big Book of Sports』(National Geographic Kids 2023)



Copyright ⓒ 2023 National Geographic Partners, LLC